

第4回 第5期武蔵野市緑化・環境市民委員会記録

●日時；平成28年3月8日（火）19：00～21：00

●場所：武蔵野市役所812会議室

●出席者（敬称略）：

<委員長> 小田 宏信

<副委員長> 大森 克徳

<委員> 清水 健一、梅田 彰、鈴木 圭子、櫻井 勝實、
町田 光司郎、小松 由美、石井 かおる、三浦 香澄

<事務局> 武蔵野市環境部緑のまち推進課、国際航業（株）

●次第

1. 開会
2. 議事（1）第3回委員会振り返り
3. 議事（2）広域な連携とネットワーク
 - ① 緑と水のネットワーク形成
 - ② 森林を守り育てる広域的な連携
4. その他（1）日程等について
5. 閉会

●発言要旨

1. 第3回議事要録の修正について

- ① 第3回の議事要録の修正については了承した。

2. 第3回委員会振り返りについて

- ① 新しい住宅地では個人宅の緑が地域のまち並み形成に寄与する事例がある。単に「緑が大切」だけではなく、緑があることで都市の価値をあげることに繋がっていることを認識し、武蔵野市も緑が見える風格あるまちづくりを行政、市民活動ともに進めるべきである。
- ② 緑の基本計画の目標は緑被率30%と設定しているが、緑被率には計上できない小さい花の存在のように数値に反映されないものも含め評価指標として取り入れるとよい。目に見える緑を数値化した緑視率を目標指標とする自治体もある。小さいみどりを評価する仕組みがあるとよい。
- ③ 住宅の緑化については敷地規模に合わせて、大木となる樹木だけではなく、立地に合わせ中低木の植栽も誘導してもよいのではないかと。個人で楽しむだけではなく、目に触れる場所で緑を楽しむことが必要で、接道部緑化を考慮した建築について、ルールとして取り組むことが必要ではないかと。
- ④ 海外の事例では、一定規模以上の民有地の樹木は行政の許可がなければ伐採できない、道路の街路樹を市民が里親として出資するなど、公共と民間の境界がないものがある。

⑤公園がきれいな状態が保たれるとルール違反に対し抑止力となる。マナー向上の視点で、維持管理の取組みがあると良い。津田公園は改修によってきれいになったので、利用価値が上がり、グリーンパーク遊歩道ではゴミが捨てられていた堆肥置き場の撤去により、ゴミもなくなった。

⑥街路樹の樹種の見直し、民有地の接道部緑化との連携によって心地よい散歩道ができるのではないかな。

3. 広域な連携とネットワークー緑と水のネットワークーについて

①ネットワークを結ぶうえで、歴史的・文化的な位置づけがあるとよいのではないかな。

②人間の目を見たネットワークとエコロジカルネットワークは別のもので、移動が可能であることと居つくことができることといった、生物から見たネットワーク形成が重要である。

③計画的に生態系を復元することで豊かな生態系が形成されるため、保全だけでなく復元の視点があってもよいのではないかな。

④同じ緑でも人間と生物では問われる質が違い、多様な植栽により多様な生物の中継地点となりうる。公園のリニューアルや学校ビオトープの再整備では、生物の繁殖や移動を踏まえる視点が必要ではないかな。

4. 広域な連携とネットワークー森林を守り育てる広域的な連携ーについて

①森林の循環を考える上で人間が利用する事業化までを見据えて検討する必要がある。

②森林を守る事業については、理解できるが、市民が知る機会が少ない。森林に都市住民の生活が支えられていることを感じられるようにすることが必要である。

③武蔵野水道水の8割が井戸水であり、多摩の森林が水源林として、都市生活を支えている。市内の緑化と合わせて山側の森林保全に貢献し、地球温暖化防止対策に努める責務がある。

④シカ肉利用による連携、社会科見学による教育など、日常で感じられるPRが必要である。

5. その他について

①次回の委員会開催日について、各委員の予定を調整したい。